

まず耕地に入れるべきである。

耕地では飼料作物の作付面積が不足するから、自然草地を改良して牧草地にするという順序ならよいが、飼料作物に対する劣等感から自然草地に逃げようという考え方は到底正しい畜産は育たない。

即ち耕地に飼料作物を栽培するのは勿体ないから、自然草地の中に入れてようという消極的な立場がいけないというのである。

こんな考え方は、自然草地も改良すれば畑となるのであるから、それを米麦に譲つて飼料作物は更にまた自然草地ということになり、この日本におけることは出来なくなるといいたい位である。

草地改良は積極的に耕地でも飼料作物は不足するから、開墾して飼料作物を作るという立場をとりたい。

## 五 暖地には飼料作物に対する

篤農技術が多すぎる

すべて未開の時代には、科学的とも思われぬことが横行するものであるが、暖地の飼料作物についても同様なことがいえる。流石は古くから飼料作物を栽培している北海道では、突飛な技術が普遍性のあるものとして喧伝されない。然し飼料作物の歴史の若い暖地では、近頃は少し分影をひそめたといえ、かなり篤農技術が云々される。

技術は一般の人が誰でも容易に行われるものでなければ、技術とはいわれない。

時には乳牛を飼うのを、蚕を飼うものと思ひ違いしているようなことが、まことしやかにいわれている。

家畜を管理すること自体に相当の労力が必要であるから、飼料作物の生産には労力

## お奨めしたい

## 春植え球根草花とつくり方

半年ぶりであられた庭をみてすぐ花がほしいのは人情である。しかし残念なことに蕾のついた苗物を移し植えしないかぎりこの望みは無理である。

春には春に植えるべきものを植えて夏から秋を楽しむにする——そこには秋植えのチューリップや水仙では楽しめないものがあるうというものである。

では春に植える球根ものにはどんな種類があるか？

まずダリアである。次いでグラジオラスやカンナが一般向きである。さらに求めるならばカラー(海芋)も一寸変つていて面白く、アマリリスや球根ベコニアの鉢作りも楽しめよう。

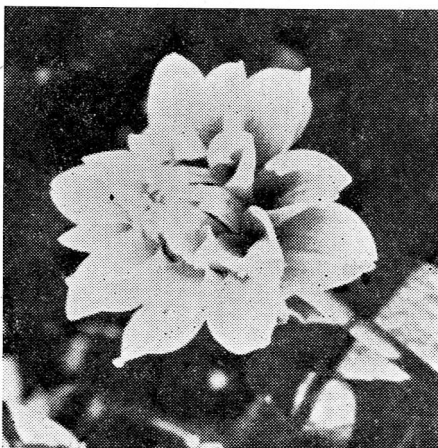
### ダリアのえらび方と作り方

ダリアはそもそもメキシコの高原に自生しているものから改良されたもので、したがって夏涼しく冬暖い熱帯高原型の気候を好む草花である。わが国では本州の夏はこの草花にとつては暑すぎるから、冬の貯蔵

のあまりかからぬ方法を採用しなければならぬ。(次号へ続く)

奥村実義

に手数がかかっても北海道が産地とされている。夏の終りから秋のこの花の色は暖地では到底味わえない冴えたもので、これは昼夜間の温度較差が大きいためである。



さて、それではどんな塊根をえらんだらよいか……春さきに売られる塊根は、冬の間にすつかり株分けされて、一本に一芽ずつ着けたものであるから、芽のないことはまずあり得ないわけだが、稀に混入してい

### 花 笠 (ホーマル・デコラティブ咲)

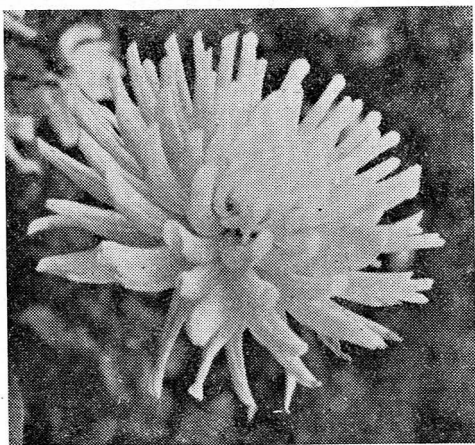
思。植えつけは降霜のおそれがなくなつてからで、その地方によつて多少異なるが大体は五月中旬前後である。早めに買つてオガクズか水苔に植えて室内に置き、少し催芽してから植えてもよいし、また上手にやれば挿芽をとつて一球から二、三本に

ることもある。クラウン(芽のついた処で前年の茎の部分)をよくみて芽を確める。四月頃になれば大抵の品種は素人でも芽がわかるから注意してみれば大丈夫。ひよろひよろのびすぎた芽、折れた芽のものは上等とはいえないが何でもない。クラウンの肌があればものは好ましくない。また芽の位置が塊根からあまり遠いものも駄目のようである。次いでクラウンから塊根部に移る細い部分——いわゆる「首」をみる。ダリアの塊根の最もいたみ易い部分であるが、この部分に折れ傷がつきやすい。傷のあるものや皮のはげたものは出来ただけ避けるが、軽度のものなら差支えはない。肥大した部分は間違いないようだが、肌のある部分はや腐れの疑いのあるもの、ひからびたものは避ける。要は塊根の大きさを決めないことで、この大小は生育には余り関係ないようである。それから最近パラフィン被覆をしたり、ビニールの袋に水苔とつめたりしたものが出はじめているが、これは取扱いや店頭で乾燥をふせぐ手段であつて、買う側にとつてみればしつかりした塊根であればよいのだから、どちらでもかまわないと思う。

もできる。

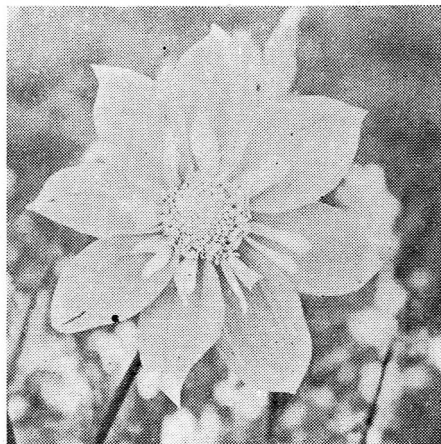
植える場所はいいいに耕して土塊を十分こなし、しめる処なら多少高畦に、乾く処なら少し植穴をくぼますことで、大雨のとき冠水すると非常に弱いから注意を要する。

一坪当り大輪で五、六株、小輪で十株位が植えられるが、肥料は窒素、燐酸、加里を各百瓦見当でよい。堆厩肥は未熟なものを絶対用いないこと、骨粉(百瓦位)魚粕(五百瓦位)もよいが、ダリアの根は地表に沿って横に張るから植えこむ塊根の下よりも周囲に浅く広く施肥した方がよい。なお浅いくぼみをつくつて塊根を横たえたならば、まずクラウンのわきに棒を立てて標識としてから、よくくだいた土を一寸位覆土する。場所によっては五月頃土地が乾燥し易いから植えるときに水をやるのもよい。こうして植えたダリアは、六月に入るとた



チャンドロン (セミ・カクタス咲)

仕立て方には二通りある。目的によつて異なるが、通常早く花をみたい場合や大輪を望む場合に、天花仕立てといつて主枝頂上の一番花を育てるが中小輪や一時に沢山花をさかせたいようなときには、下から五節位の処で摘心仕立てをする。ここで注意すべきことは、葉がまだ展開せず合掌葉の部分で摘むことで、遅れると茎が中空となつて傷口に癒傷組織ができがたく、傷口から腐れが入りやすい。摘心後各節の腋芽は急に伸び始めるが、その頂端に蕾が現われたら中央の一つ(これが一番早い)を残してわきの二つを摘みとり、また上



ミス・H・ブラウン (コラレット咲)

から二、三段の腋目は早めにかきとること。これが遅れると切花しても品質が落ちるものである。こうして七、八月

頃にまず一回開花した後、またその腋芽を育てて開花させるという風に秋まで順次花をみられる。

品評会むきの大輪花は四月頃挿芽して

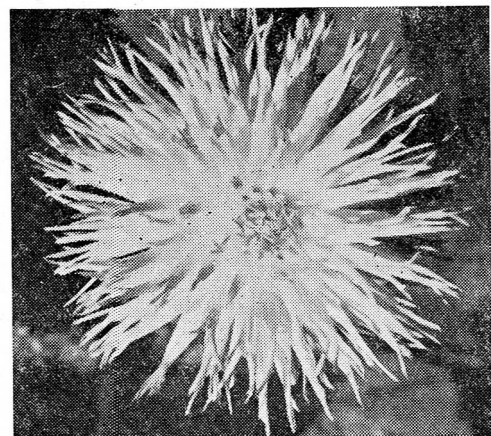
くましく生育してくるが、何本も出てきた時は一番いい芽を残して他は摘み取つた方がよい。そして伸びるに従つて軽く土よせをするとともに、そろそろ手竹の用意をする。

仕立て方には二通りある。目的によつて

三、四寸鉢で育てた苗を六月下旬頃に定植する。そして活着して伸び始めたら週一回ずつ米糠の腐汁をうすめて追肥しながら一本仕立てとすれば花が大きくなる。病虫害であるが、最も恐ろしいのはバイラス病である。モザイク(葉に濃淡のむらがある)



オレンジ・エレクション (アネモネ咲)



サン・ランベール (セミ・カクタス・フリルド咲)

できる)萎黄(新梢が黄色化してぐもやし)のようになつてくる)萎縮(葉が甚しくこわばつて病的な光沢をおび、のびのびと生育しない)などで、経験的に発芽の遅いものや球根の肌に松皮状褐色亀裂のあるものに罹病株が多いといわれるが、モザイク萎縮は生育初期に注意して除くようにする萎黄は夏になつて現れるから見つけ次第除くが、これは植えてから生育中に感染するものらしい。青枯病(生育中の株が急に枯れる)根頭癌腫病(土際の部分に褐色の癌腫ができ発育が衰える)などあるがあまり多くはない。虫害は「ずいむし」(あわのめい)の幼虫で、最初新芽を喰うが後に茎の中へ入る。殺虫剤をまくとよい)、よとうむし(花や葉を喰う)などや、夏季乾燥すると赤ダニがつくが、薬剤の発達した今日ではさほど恐ろしくない。それではどんな品種を植えたらよい

か？ というと、目的によつてそれぞれ異なるが花の大きさを競い楽しむとすれば六輪、巨大輪であろう。ながめてよし切花によしといえど中大輪、中輪、小輪あたりであるうし、仏花にはボンボンの一、二株も植えたい。

ダリアの花型には二十近い類別があるし各人の好みによつても異なるが、最近の傾向は概して花首が丈夫で長いものが喜ばれるし、カクタス系統のものがふえてきたようである。花色は赤、桃色系が多く、黄、白などが共に基調となるが、樺、色系のしぶさも人気が出てきた。残念なことに、きれいな青系は世界中どこにも存しないし、ダリアの夢の色である。

### グラジオラスのえらび方と作り方

ダリアに次ぐ春植え球根はグラジオラスである。これも長年改良された交配種で、品種の多いことダリアに劣らない。大別して春咲性と夏咲性であるが、春植え用は夏咲性グラジオラス系、プリムリナス系、プリムリナス・グラジオラス系の品種で、最近はこのブ・グラジオラス系の系が多い。

球茎は直径二種乃至五種位のまるい扁平なもので、この頃は枯れた皮を除いて売られる場合が多いから、球茎の工合がよくわかるが、皮のついたままだと往々にして腐れた球でも気付かず買ってから用心する。この球茎は秋に掘上げて乾かす時及び貯蔵中の手違いなどから腐れることが多いが、高温で乾せば腐らない。球茎の形は腰高な

のがよいといわれるが、健全球でさえあれば扁平でも構わない。要点は腐れかけていないものを手に入れることと、木子から大量生産される関係上、品種の混りがよくあるので、信用ある処から求める方がよい。植えるのはダリアと同じ頃でよいが、早生のものなら多少遅れても開花しよう。

性質は強く土質をえらばず、浅根性であるから表土の比較的少い処でも育つが、肥料はたつぷり与えた方がよい。坪当り堆厩肥四キロ、油粕四百瓦、過燐酸石灰二、三百瓦、硫酸加里六、七十瓦位を基肥として施し、発芽後生育中に二、三回水肥えを追肥すれば理想的である。

植える間隔は十五種×十五種位でよく、小球ならもう少しつめても差支へはない。平らにならした畑に一まず球を並べ、移植で一球ずつ深さ二寸位に芽のある方を上にして植えると、やがて発芽してくるが何本出ても除く必要はない。大抵小球ならば一本だが、大球では二本、時には三、四本発芽するが、全部開花するのだから捨てるのは愚である。

支柱は最初から立てておいた方がよく、風で倒れると曲つて観賞価値がさがる。

この草花にもやはりバイラス病があるがダリアの場合ほど恐ろしいとはいえず、葉の伸びがわるく、花が小さくなつたり、色がでなくなつたりする。趣味栽培では一々検査して焼き捨てるまでもないが、軽症でも種球として翌年まで保存するのはやめたい。虫害はよとうむしなどに葉や蕾を喰われぬようにすること、赤ダニの防除ぐら

いで大した問題にはならない。切花する場合、普通の家庭では宮利用ではないのだから、下部の葉を二、三枚残して切るようにすれば、翌年に用いる種球は十分であるから、秋に掘りあげて貯える。貯蔵は簡単でよく乾して凍らないように暖い室内におくだけで越冬できる。

### カンナその他の春植え球根草花

今日作られているカンナは殆ど交配種で、フレンチ系とイタリアン系にわけられるが、いずれも暑い夏を求める草花である。その南国的な情緒はえがたいが、北海道では年によつては秋おそくにならないと開花しない場合もある。春さき売られている根茎を求めたら、暖い処で少し芽をのばしてから植えるといよい。水揚げがわるいため切花して楽しむのは無理である。

冬の切花カラー(しきざきかゆう)は夏の露地向きではない。春に植えるのはエリオチアナ(きばなかゆう)とアルボ・マクラタ(しらはしかゆう)で、多少湿る肥沃な土地によく育つ。切花もよい。

アネモネは元来秋植えのものだが、北海道では春に植える方がよい。年により場所によつては秋植えでも越冬するが、優良種は危険である。花壇用に可愛らしい花である。

アマリスの鉢植えは簡単で、誰でも花を咲かせられるが、葉をのばすように注意。

球根ベゴニアは北海道に適した夏の鉢花で、腐植の多い排水のよい土を使つて四、

五寸鉢に球がみえる程度に浅植えする。生育してきたら時々水肥えを与えると、八月頃には美しい花が咲く。最近売られているハイボネックスカプラントフードを追肥に用いると臭くないし、清潔だから室内でも栽培できる。(北大農学部・園芸第二教室)

### 春植各種球根価格

カンナ	グ ラ ジ オ			ダ			リ			ヤ				
	レッド・クロス バター・カップ	ヘンドスピックス パター	リスノール スポート・ライ ン	ポール ポット	ボ ン	咲 ベ	中 モ	大 ク	輪 ベ	中 銀	小 リ	輪 ク	花の色	価格
純黄色	緋赤色	濃桃色	純白色	濃黄色	赤爪白	桃小輪	藤紫色	洋紅色	淡黄色	白色	淡桃色	緋紫色	花の色	価格
四〇	四〇	二〇	二〇	二〇	三〇	四〇	四〇	五〇	二五〇	三〇〇	四〇	八〇		